

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) **グループホーム 小野の里
2 階**

所在地
(県・市町村名) **鹿児島市小野二丁目10番18号**

記入者名
(管理者) **計画作成担当者 ・福田則子**

記入日 **平成 20 年 6 月 30 日**

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で地域密着型サービスの意義を話し合い、今までの理念を見直し、地域との関係が深められ地域で安心した生活ができる様に理念に加えた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に声に出し唱和する事で確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には毎月のお知らせをお送りしたり、面会や訪問の際等、折に触れ繰り返し伝えている。又、地域住民のホーム見学時、見やすい玄関入り口に掲げ解りやすく説明を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方がいつでもお茶をしに来れる様な環境作りや声かけをしている。行事のお知らせなども事前に配布し、気軽に参加して頂きよりよい関係を築いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入してホームで参加できる行事や、地域の人々で運営している朝市場等も利用して交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々へ高齢者サービス利用の内容の説明や、案内等を行う取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや勉強会で自己評価及び外部評価の意義を話し合い、前回の外部評価の結果を踏まえ、質の向上につながる様に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進委員会を開き事業所からの報告、地域住民、家族からの意見や要望を話し合いサービスの向上に生かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス利用の相談や質問を行い、サービスの向上を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングの中で職員の理解を深めるようにしている。又、対応が必要な利用者にはその都度、支援に結び付けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで虐待マニュアルを作成し、勉強会や日々の介護の中でも言葉かけなど職員間で話し合い、職員一同虐待防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所見学時に時間をかけ事業所のケアに関する考え方や取り組みを丁寧に説明を行い、入所契約時に特に起こりうるリスクや医療連携体制、退去等について詳しく説明し同意を得るようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員の信頼関係を深め、思いや意見を言える話しやすい雰囲気づくりを心がけている。運営推進会議の参加や介護相談員の訪問を受け入れ利用者の相談に乗ってもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体調変化時には詳細に家族に連絡し、病院受診等の判断を仰いでいる。金銭管理や暮らしぶりについては面会時に出納帳を確認してもらい、サインを頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進委員会で意見を頂いたり、面会時に何でも言って頂けるように、雰囲気づくりや問いかけをしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護の中や申し送り、月ミーティング時に意見や要望を聞くように心がけ、質の向上に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や状態に応じミーティングを早急に行い、勤務調整をしている。行事等は必要に応じ職員を確保している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアに心がけている。やむを得ない場合のみ行い、その都度紹介をし、普段より合同で行事やコミュニケーションを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が研修に参加できる機会を設けている。他のグループホームとの勉強会や事業所内の研修を行い、全員で技術や知識を身につけ、個々のスキルアップに繋がるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の認知症グループ連絡協議会の会合研修に参加している。他の事業所と毎月交流勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼食後はお互いに声かけを行い、利用者と離れ休息を取れるようにしたり、ゆっくりお茶を飲める雰囲気を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則を作成し、労働条件を整え、又資格取得には職能評価を行い、向上心がもてるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に家族やご本人より生活状況や思いを聞き、生活状況の把握に努めるようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前面談にて生活状況を把握するように努め、今までのサービスの経緯について聞くと共に、ニーズの把握に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	相談時はご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要として いる支援を見極め、改善に向けた支援を提案している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談ながら工 夫している	本人や家族に事業所を見学して頂いたり、入居前にご家族 と十分に話し合い、入居後もご家族やこれまで関わった人々 に来てもらうなどし、安心感を持ってもらい徐々に馴染める様 に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、大家族という思い で、出来る範囲での手伝いをして頂く中で、お互いが共同し ながら和やかな生活が出来る様、環境作りや声かけを行って いる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	ご家族と情報の共有をし利用者を支える支援をしている。ご 家族へ便り便を発行し、行事などに参加して頂き利用者と共に 過ごして頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ご家族へ利用者の現状報告、相談を密に行い行事等への 参加の呼びかけをし、関係が途切れない様にしている。ご家 族との外出や要望があれば電話などする事でより良い関係 を築くよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	ご家族との外出、外泊は自由にされており、法事や墓参り、 利用者の家族会などに参加しておられる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	お茶や食事、それ以外でも自由に共有するスペースがある。 席替えなど時々行い、職員と一緒に多くの会話をする事で 利用者同士の関係がうまくいく様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時、ご家族の要望を伺いながら情報提供などの協力を最大限に行い、ご家族が安心して他サービスが受けられる様な対応を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回のミーティング時に全職員で入居者一人ひとりについての話し合いを行い、当日出席できなかった職員に対してはミーティング記録を配布してケアの統一に向けた支援を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の生活歴の把握を行いプライバシーに配慮しながら、各入居者のスタイルに合わせ馴染みの関係を築きながら支援を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの把握を職員が統一して行い、本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見していく様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からの要望などは面会時に事前に伺い、職員で意見やアイデアを出し合い、話し合った結果をもとに介護計画の作成を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の無い入居者は定期的にプランの見直しを行い、状態変化のある入居者はその都度、見直しを行い現状に即したプランの作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄、身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉を細かく記録し、個別に毎日の申し送りや情報共有を行い、個別記録を基に介護計画の見直し評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の要望があれば往診等の対応や入院された入居者様に対しては医療との連携を密に取り、馴染みの関係が途切れない様頻りに面会等へ行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣公民館の図書室に出掛けてそれぞれ入居者の好きな本を借りて来て読んでいる。不定期では有るが地域のボランティアの協力も頂きながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の体調、ご家族の要望に応じて訪問理美容サービスを利用して入居者様からは好評を頂いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的開催している地域推進委員会への参加を事前に文書で通達を行い参加を頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や往診はご本人やご家族の希望に応じて対応している。受診は基本的に家族にお願いしているが不可能な際は職員で対応している。		

鹿児島県 グループホーム小野の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の身体状況を把握し、必要に応じ専門医の受診を行っている。認知症に関しては地域の中で探し信頼関係を築きながら行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の記録をもとに常に異常の有無を確認し、主治医に相談や診察をお願いしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族、医療関係、ホームと三者一体となって連絡を密にし情報を交わしながら早期治療、退院が出来る様に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に説明を行っているがその都度ケアについての説明を行っている。管理者が家族とその都度話し合いを行い、今後に向けた方針の共有を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者については安心と安全を確保し、不安無く安心して最後が迎えられる様取り組んでいる。医療との連携を取っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことのダメージを最小限に食い止める対応策をしている。それでもやむを得ない場合はこれまでのケアの工夫等、情報を詳しく伝えこれからの暮らしが継続出来る様、配慮してもらえる様働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりの誇りを尊重し、職員一人ひとりが入居者の尊厳を傷つけないようにし、守秘義務を守っている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	入居者に合わせた声かけを行い、意思表示が出しやすいようにする。意思表示が出なくても表情や行動、発言などで読み取る。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者一人ひとりの生活リズムや習慣を大切に、その日の体調や思いを大切にして、職員が入居者に合わせ支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	着替え、更衣は本人の意向で決めているが、その時の季節や気温に合わない服装の時は声かけを行い、一緒に選んで頂いている。本人の希望により移動美容室を利用し、表示のご本人の好きな髪型を直接、美容師の方に注文をしてカットされている。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	たべたいと思える様に彩りや盛り付け方を工夫している。職員と一緒に食事を摂っている。準備や片付けを日課として楽しみにしている入居者もいらっしゃる。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	飲み物はお茶以外にも嗜好の飲み物を用意しており、楽しく摂取出来るようにしている。居室に冷蔵庫を置き好きな時に飲食できるようにしている。冷蔵庫の在庫を入居者の了解を得て定期的に行い、賞味期限切れが無いかな？ 痛んだものが無いかな？ チェックを行っている。食べ過ぎない様にその都度、声かけを行っている。希望があれば一緒に買い物に出掛けている。	

鹿児島県 グループホーム小野の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間、リハビリパンツを着用の入居者も日中はなるべく綿パンツを使用して頂き、排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否のある方にはタイミングをみて声かけをし、ご家族の協力も得て支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望や生活リズムを考慮し、昼寝をされたりホールでテレビを観たりしておられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、お盆拭き、朝の掃除の手伝いなど自ら日課としてやって下さる入居者もおられる。他の入居者も声かけすると快く手伝って下さる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方、したい方には本人様に所持して頂いている。本人の希望で職員と一緒に買い物に出掛け、会計も自分でされている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、イベントや行事(花見等)に出掛けられる様に支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と小旅行や外泊、外食などを自由にされている。		行事以外でも気軽に出掛けられる様にする。(例えば、水族館、映画館など)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われた時、又、電話が来た時も子機を渡してゆっくりお話できる様にしている。事前にご家族の了解を得て、本人から家族宛に手紙を職員に託された時などはプライバシーに配慮しながら本人の思っている事、望んでいる事を把握して支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人等が来られた時はテーブル、椅子をセットしてお茶などをお出してゆっくり過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を担当の職員で定期的開催し、身体拘束をおこす状況、原因、内容などを話し合い全体ミーティングで発表して身体拘束が起きないように取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室ドアに鍵を掛けなくて外に出て行かれた際は安全面に配慮しながら職員と一緒に付き添う様にしている。職員が同じ場所にいないよう入居者が見える位置に配置してケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	前日の行動など申し送りして把握して日中は職員が連携を取りながら安全面に注意して見守りをしている。夜間帯は巡視などしながら安全に配慮して見守りをしている。物音が聞こえるように静かな雰囲気を作っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液や洗剤などは入居者の目に触れない様に倉庫に保管をして使用時にその都度取り出すようにしている。包丁などは高い場所に仕舞っている。入居者の状態に合わせて包丁を使い料理の下ごしらえを職員と一緒に頂く事もある。雑巾縫いなどの裁縫も楽しんでおられる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室など転倒防止の為、足元に物を置かない様にしている。クレンジングなど食べない様に本数を把握して見守りをして頂いている。食事もしっかり食べて頂く様、職員が側に付き添い声かけを行っている。居室に仏壇のある方にはマッチなどを使用しないよう事故防止の為の説明を十分に行い理解を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練の中で人工呼吸法を消防署の方の指導の元、マネキンを使用して職員全員が緊急時に対応出来る様に訓練を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	課題を決め、マニュアルを作成して消防署の方に来て頂き、入居者と共に避難訓練を行っている。その後に反省会をし、問題点など改善指導して頂く様にしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	心臓疾患、高血圧の方の予測される危険を防止できる様に家族と職員間で話し合い、事故の無い日常生活ができる様にケアプランの中に取り込み、歩行練習、入浴など安全な支援を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕の申し送りでも一人ひとりの状況を伝達し、報告漏れの無いようにしている。バイタルチェックを行い、異常があった場合は管理者や看護職員の支持で情報を共有して対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテを作り疾患など把握し、又薬の内容なども把握できるようにしている。服薬は手渡ししてきちんと飲んでいるかを確認している。床に落とさない様に見守りを行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の薬に頼らず自然排便できる様努めているが、便秘で身体の負担にならない様に医師に相談して、便をやわらかくする薬などを処方して頂いている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、状態により見守り介助を行っている。舌帯がないか口の中の確認をしたり、唾液が出ていくなっているからお茶を飲んで頂いている。口腔体操を食事前に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作成し、味付けや旬の食材に考慮している。身体チェック表に一人ひとりの水分摂取量と食事量を記入して健康管理を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を定期的に開催して勉強会を実施している。又、マニュアルも作成している。インフルエンザに対しては年一回、入居者、職員共々予防接種を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限に注意して新鮮な食材を使用している。冷蔵庫、調理用具もその都度、洗浄、消毒し、衛生管理している。又、冷蔵庫の温度チェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になる様に季節を感じる花を生けたり花を植えたりしている。又、玄関は自由に出入りできる様にしており、その周辺には危険物を置かない様に注意している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオなどの音量は入居者が不快感を感じない様に配慮している。季節感を感じる物を入居者に作成して頂き共同空間や居室入り口に飾りつけを行い好評をえている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、椅子等を置いてあり、各入居者が自分のペースで自由にくつろいでおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物等を配置している。(仏壇、冷蔵庫、テーブル、椅子など)又、家具など少ない方には入居者の作品や絵などを飾り、明るく落ち着け安心して生活できる空間を作っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の了解を得ながら室内の掃除を行い、匂いのある時には換気をしている。入居者の様子を見ながら温度調節を行う様に心がけている。又、室内と外気温との差が大きくなりすぎない様配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子の方でも十分な広さで自由に移動できる様にしてある。洗面所、トイレなども車椅子でしやすくなっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の出来る事、わかる事などを追求し、その方に合った環境作りに努力している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭にある畑に花や季節の野菜を植え、水やりや草取りなど入居者に無理の無い程度に参加して頂き、収穫の喜びを一緒に楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホーム小野の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者を人生の先輩として常に尊敬し、敬う事で自ずと言葉使いや接し方が違って来るので、その事を常に念頭において介護に望む様にしている。入居者同士が仲良く、楽しく過ごせる様、「ここに来て良かった。」と思って頂ける様に支援して行きたい。理念に掲げているように常に入居者の出来る事、したい事を尊重したケアを心がけて支援して行きたい。